

令和6年6月6日

東北町議会議長 岡山 粕 男 殿

産業建設常任委員会
委員長 坂本 直 大

所管事務調査報告書

本委員会は所管事務の調査について、下記のとおり会議規則第47条の規定により報告します。

記

- 1 開催期日 令和5年5月23日（木）
- 2 開催場所 役場議員控室
- 3 調査事項
 - (1) 所管事務調査
 - ①建設課
 - ・岩渡沢川改修事業現地視察について
 - ・小川原通跨線橋架替事業現地視察について
 - ②上下水道課
 - ・東北町水道事業経営戦略の改定について
 - ・美須々・淋代地区統合事業の経緯とスケジュールについて

4 調査結果

本委員会は、閉会中の調査事項でありました所管事務について、町側から副町長及び担当課長の出席を求め、開催しました。

調査の方法は、町側から説明を求め、その後質疑を行いました。

以下、調査の概要と質疑等のありました主なものについて、報告いたします。

建設課

・岩渡沢川改修事業現地視察について

・小川原通跨線橋架替事業現地視察について

事業概要

- 事案名 : 岩渡沢川改修工
- 補助事業者名 : 東北町長
- 防衛施設名 : 東北町分屯基地
- 事業内容 : 洪水対策
- 根拠法令 : 環境整備法第3条第1項
- 全体計画
 - ・事業費 : 55億2百万円、補助額 : 55億2百万円
(補助率 : 10/10)
 - ・事業量 : 護岸工 RL=5,608m、LL=5,608m
- 計画年次 : 平成16年度～令和6年度
 - 令和4年度まで 護岸工 RL=5,608m、LL=5,608m
 - 令和5年度 (国債工事による継続分)
- 令和6年度計画
 - ・事業費 : 78,100千円、補助額 : 78,100千円
 - ・事業内容 : 管理用道路 RL=308.6m、LL=308.0m
現況護岸復旧 RL=12.5m、LL=21.8m

事業概要

- 事案名 : 小川原通跨線橋架替事業
- 路線名 : 町道535号線
- 事業内容 : 橋梁の架替え
- 橋梁諸元 : 橋長 L=15.45m 全幅員 5.73m
 - 上部工形式 : 下路形式鋼H桁橋
 - 下部工形式 : 不明
 - 基礎工形式 : 不明
 - 適用示方書 : 1956年(昭和31年)推定
 - 架設年月日 : 1967年5月25日
- 全体計画
 - ・事業費 : 約16億円
 - ・概要 : 橋長 L=19.4m
車道幅員 W=5.5m(全幅7.0m)
片側に歩道有り(歩道幅員:2.5m)
- 計画年次 : 令和4年度～令和10年度(7箇年)
- 令和6年度計画 下部工撤去工事施工管理業務
 - 下部工撤去工事・電気設備移設工事
 - 信号撤去工事
 - 県道切り廻し工事
 - 上部工撤去工事施工監理業務
 - 電気工事積算委託業務
 - 上部工撤去工事
 - 電気通信設備移設工事

※現地視察

岩渡沢川→小川原通跨線橋

上下水道課

・東北町水道事業経営戦略の改定について

公営企業である水道事業は、町民の生活に欠くことのできない重要なサービスを提供する役割を担っております。将来にわたって健全かつ安定的に事業を継続していくために、中長期的な経営の基本計画となる「東北町水道事業経営戦略」を平成31年3月に策定しております。

策定から5年が経過し、人口減少や社会情勢変化等に伴い料金収入の減少が見込まれる一方、施設の老朽化による施設更新等が課題となっており、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。

現在の状況から将来を踏まえた実効性のある計画とするため、令和6年度から令和15年度までの10カ年を計画期間とする投資・財政計画の見直しを行い、経営戦略を改定しました。

今後も、社会情勢や経営環境の変化に合わせて3年から5年ごとの見直しを行い経営基盤強化と財政マネジメント向上に取り組んで参ります。

【改定の主な内容】

○東北町水道事業 経営戦略【概要版】

1. 事業概要

経営戦略は、将来的にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。平成31年度に策定した経営戦略をより質の高い経営戦略にするため改定を行います。昭和40から50年代に整備した多くの施設で老朽化が進んでおり、施設の更新及び耐震化には多大な経費がかかるため、施設の位置・規模・構造の最適化やダウンサイジング・スペックダウンなどの投資の合理化に取り組み経営基盤の強化を図ります。今後、将来を見据えた財源確保の対策を講じた上で、耐用年数及び現状を踏まえた更新需要を適切に把握し、水道施設の計画的な更新が急務です。

2. 将来の事業環境

(1) 給水人口

給水人口の予測は、国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に算定した計画給水区域内人口に計画普及率を乗じて、計画給水人口を算定しています。長期的な予測として令和35年度には令和5年度の53%まで減少すると予測しています。

(2) 水需要

水需要の令和4年度の実績値は、生活様式の変化に伴う使用水量の減少と、農業・酪農への積極的参入などによる使用水量の増加が相まって使用水量の推移は減少傾向から微増傾向に変化しています。将来水需要（使用水量）は令和4年度の実績値を基に算定した結果、給水人口の減少により一日最大給水量は、令和35年度には令和5年度の49%まで減少すると予測しています。

(3) 料金収入

料金収入については、現行料金が令和5年10月1日に改定されています。今後の料金改定を行わなければ、料金収入は減収するので、段階的に料金の見直しを行います。約10年間で35%程度の料金の増額を段階的に3年から5年ごとの適切な時期に検討します。

(料金改定、改定済み：令和5年10月→改定予定：令和8、11、14年度)

3. 経営の基本方針

将来における水需要の増加を望めない中、老朽化した施設並びに管路の適切な更新や管路の耐震化等の設備投資を行いながら更に厳しい経営を余儀なくされることが予想されます。持続可能な経営をするために、経営基盤の強化を図り、水道事業の安定的な運営を行えるよう計画します。

老朽化した水道施設等の更新及び耐震化事業に対応するための技術者の育成や事業量に応じた適切な人員配置を目指します。

4. 投資・財政計画（収支計画）

施設の老朽化による更新費用のため国庫補助金・企業債等を積極的に活用しながら、基幹管路の耐震化及び更新（更新目標：L=860m/年：20年間で17,200m）、施設・設備の統廃合（美須々・淋代（R6～R9）地区統合等）を行い、その後施設の更新・管路

経年化率の減少及び維持管理費の節減を目指します。
なお、本編は東北町ホームページに掲載しております。

【質疑】 施設・設備の統廃合とありますが、現在こういう施設がどれくらいあって、将来的にはどれくらい統廃合して減らしていく形にするのか具体的な数字を教えてください。

【回答】 施設の統廃合については、具体的な数字は今のところ出ておりませんが、まず美須々、淋代地区の統合事業をはじめ、今後外蛭沢東部地区と北栄地区の統合、千曳地区と清水目地区の統合を考えております。

・美須々・淋代地区統合事業の経緯とスケジュールについて

【経緯】 令和5年5月26日契約の淋代浄水場取水ポンプ更新工事で9月21日に取水ポンプの引き抜きの際に固着して更新作業が出来ない状態になりました。1系統のため、不具合が生じた場合に淋代地区全域が断水となります。

【現状】 平成8年度から運用をしており、今年で28年経過しております。

- ①地震等による井戸ケーシングの歪みや破損。
 - ②経年劣化による配管等の錆が多量に発生し固着。
- 上記の2点が有力な原因と診られます。

【対策】 (1)新井戸の掘削

(2)廃止済井戸の復活

(3)令和2年度基本計画で策定した統合計画

上記の方法を基に、検討及び調査を重ねた結果、(1)新井戸の掘削と(3)令和2年度基本計画で策定した統合計画を応用し、淋代・美須々両地区を網羅する施設統合計画に至りました。

【効果】 現行の淋代浄水場の膜ろ過洗浄・更新費用や維持管理費等の削減が期待できます。

美須々地区の取水ポンプ停止による電気料等の削減が期待できます。

【今後の予定】 現在の状況として、原因となる取水ポンプに電気抵抗等の異常がないため、計画完了まで運用できる見込みではありますが、緊急を要するために令和6年度から令和9年度の期間で概算総事業費3億3百万円の事業費で開始することとしました。

(財源：公営企業債・過疎対策事業債・単独費)

地区名	計画給水人口	計画1日最大給水量	計画1日平均給水量
美須々・柵地区	44人	117 m ³ /日	47 m ³ /日
淋代地区	159人	152	88
計	203人	269	135

